



口永良部島から得られた南限更新記録 2 種を含む魚類 57 種の記録

阿部健志郎^{1,2}・清和凌河²・坂井陽一²・古橋龍星³・本村浩之⁴

Author & Article Info

- ¹ 応用地質株式会社 (つくば市)
abe-kenshiro@oyonet.oyo.co.jp (corresponding author)
- ² 広島大学大学院統合生命科学研究所 (東広島市)
RS: seiwa.spilota@gmail.com
YS: sakai41@hiroshima-u.ac.jp
- ³ 鹿児島大学大学院連合農学研究科 (鹿児島市)
k4596558@kadai.jp
- ⁴ 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 14 May 2024
Revised 29 May 2024
Accepted 30 May 2024
Published 01 June 2024
DOI 10.34583/ichthy.45.0_1

Kenshiro Abe, Ryoga Seiwa, Yoichi Sakai, Ryusei Furuhashi and Hiroyuki Motomura. 2024. Records of 57 fish species, including two southernmost recorded species, from Kuchinoerabu-jima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 1–14.

Abstract

A total of 57 fish species was newly recorded on the basis of collected specimens and underwater photographs from Kuchinoerabu-jima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan. Of the 57 species, *Luciogobius elongatus* Regan, 1905 and *Luciogobius* sp. 3 sensu Shibukawa et al. (2019) represent the southernmost records for these species. In addition, *Aeoliscus strigatus* (Günther, 1861), *Girella mezina* Jordan and Starks, 1907, *Hologymnosus annulatus* (Lacepède, 1801), and *Naso lituratus* (Forster, 1801) represent the first specimen-based records from Kuchinoerabu-jima island. These additional records bring the total number of fish species recorded from Kuchinoerabu-jima island to 763.

口永良部島は種子島、馬毛島、屋久島、竹島、硫黄島、および黒島などととも大隅諸島に含まれ、屋久島の約 12 km 北西沖に位置する。口永良部島は活火山島であり、海岸線は過去の火山活動によって噴出した溶岩の影響により険しい地形を形成している。本島は黒潮流路に近接する位置にあり、熱帯性魚類とともに温帯性魚類もみられる魚類相を有することが知られていたが (具島・村上, 1977)、標本に基づく魚類相調査は長らく行われていなかった。そのような状況において、木村ほか (2014) は口永良部島折

崎のタイドプールにおける水中写真と標本に基づく魚類相調査により、16 科 46 種を記録し、それらのほとんどが主に亜熱帯区から熱帯区 (インド・西太平洋熱帯海域) に分布する南方系魚類であることを確認した。また、池 (2017) は口永良部島内の河川にて採集調査を行い、5 科 8 種を確認した。さらに、木村ほか (2017) と木村 (2022) は口永良部島における魚類相の包括的な調査により、24 目 115 科 317 属 680 種を確認し [木村ほか (2014) のオトメベラ *Thalassoma lunare* (Linnaeus, 1758), ホシヒレイソハゼ *Eviota queenslandica* Whitley, 1932, 池 (2017) のテンジクカワアナゴ *Eleotris fusca* (Bloch and Schneider, 1801) は未掲載。また、スジクモハゼ *Bathygobius cocosensis* (Bleeker, 1854) は木村ほか (2014) で記録されているが、木村ほか (2017) のスジクモハゼはヤハズハゼ *Bathygobius cyclopterus* (Valenciennes, 1837) の誤同定であるため、上記の種数には含まれない]、口永良部島の魚類相は屋久島の魚類相と類似するが日本本土由来の温帯性魚類が確認できることを示した。なお、木村ほか (2017) で報告された標本の一部は再調査に基づき、キビナゴ *Spratelloides gracilis* (Temminck and Schlegel, 1846)、チビハナダイ *Plectranthias nanus* Randall, 1980 (*Plectranthias longimanus* として)、オハグロベラ属の一種 *Pteragogus* sp., およびヘビギンポ属の一種 *Enneapterygius* sp. は、それぞれリュウキュウキビナゴ *Spratelloides atrofasciatus* Schultz, 1943, ムラモミジハナダイ *Plectranthias longimanus* (Weber, 1913), キツネオハグロベラ *Pteragogus enneacanthus* (Bleeker, 1853), およびスバルヘビギンポ *Enneapterygius erythrosoma* Shen, 1994 に再同定された (川路ほか, 2019; 畑ほか, 2021; 飯野・本村, 2021; Dewa and Motomura, 2022)。また、木村ほか (2017) が記録したヘビギンポ属の一種 *Enneapterygius fuscoventer* Fricke, 1997 に対しては Tashiro and Motomura (2018) により標準和名ミツダレヘビギンポが提唱された。

木村ほか (2017) 以降の調査では、オオアカムツ *Etelis boweni* Andrews, Fernandez-Silva, Randall and Ho, 2021, ハチジョウアカムツ *Etelis carbunculus* Cuvier, 1828, タ

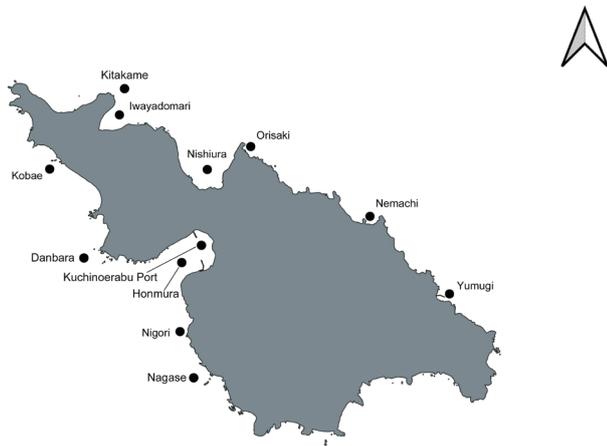


Fig. 1. Sites of collection of specimens and underwater photographs in Kuchinoerabu-jima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan.

チガミフエフキ *Lethrinus longirostris* Playfair, 1867, およびセボシウミタケハゼ *Pleurosicya mossambica* Smith, 1959 が口永良部島から新たに記録されている (渋谷ほか, 2022; ジョンほか, 2023; Oyama et al., 2023). さらに, Kadota et al. (2024) は 2005 年に実施したライトランセクト法により魚類の目視調査を実施し, 同一の手法による 1972 年のデータ (具島・村上, 1978) との比較を通じて, 口永良部島の魚類群集の変化を考察し, 温帯性魚種の減少と南方性魚種の増加が温暖化と藻場の消失といった環境変化によりもたらされた可能性を指摘している. 口永良部島の本村湾で実施された兩年の目視調査により 184 種を記録したが, このうち 24 種 [ヤミスズキ *Belonoperca chabanaudi* Fowler and Bean, 1930, キツネアマダイ *Malacanthus latovittatus* (Lacepède, 1801), マダラタルミ *Macolor niger* (Forsskål, 1775), タマメイチ *Gymnocranius satoi* Borsa, Béarez, Pajjo and Chen, 2013, フタスジヒメジ *Parupeneus crassilabris* (Valenciennes, 1831), スミレヤッコ *Paracentropyge venusta* (Yasuda and Tominaga, 1969), レモンズズメダイ *Chrysiptera rex* (Snyder, 1909), アサドズズメダイ *Pomacentrus lepidogenys* Fowler and Bean, 1928, イラ *Choerodon azurio* (Jordan and Snyder, 1901), ホシススキベラ *Anampses twistii* Bleeker, 1856, ギチベラ *Epibulus insidiator* (Pallas, 1770), ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* Schultz, 1960, ナメラベラ *Hologymnosus annulatus* (Lacepède, 1801), タコベラ *Oxycheilinus bimaculatus* (Valenciennes, 1840), ホホスジモチノウオ *Oxycheilinus digramma* (Lacepède, 1801), ブダイ *Calotomus japonicus* (Valenciennes, 1840), オオモンハゲブダイ *Chlorurus bowersi* (Snyder, 1909), コブブダイ *Chlorurus oedema* (Snyder, 1909), ツキノワブダイ *Scarus festivus* Valenciennes, 1840, キビレブダイ *Scarus hypselopterus* Bleeker, 1853, アオブダイ *Scarus ovifrons* Temminck and Schlegel, 1846, ニシキブダ

イ *Scarus prasiognathos* Valenciennes, 1840, ナガブダイ *Scarus rubroviolaceus* Bleeker, 1847, およびサザナミハギ *Ctenochaetus striatus* (Quoy and Gaimard, 1825) が口永良部島初記録であった [マダラタルミ, イラ, およびオオモンハゲブダイは木村ほか (2017) で記録されているが, それらは誤同定であったため (木村, 2022), Kadota et al. (2024) が初記録となる].

筆者らは口永良部島での海洋生物の生態調査の過程において, 木村ほか (2017) をはじめとするこれまでの同島の魚類相に関する報告において記録されていない魚類 (以降, 未記録魚類) の出現を多数確認した. そこで, 筆者らは口永良部島の魚類相を構成する出現魚類の情報追加を目的に, 2021–2023 年の夏季において魚類採集調査を実施した. その結果, 標本に基づき 20 種の未記録魚類が確認され, 同調査期間に撮影された水中写真から 24 種の未記録魚類が確認された. さらに, 鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている口永良部島産標本を精査したところ, 上記には含まれない 8 種の未記録魚類が確認された. 加えて, これまで水中写真のみや目視で記録されていたが, 本研究により標本が確認された魚類が 4 種, 本研究により水中写真が確認された魚類が 1 種確認された. これらの口永良部島初記録となる魚類 52 種と標本に基づく初記録となる魚類 4 種, および水中写真に基づく初記録となる魚類 1 種についてここに報告する.

材料と方法

口永良部島における魚類調査は 2021 年 7–9 月, 2022 年 8–9 月, および 2023 年 6–9 月に島内の各所で実施した (Fig. 1). 採集は沿岸域における手網を用いた採集と釣りにより行った. 水中写真の撮影にはコンパクトデジタルカメラ (OLYMPUS, TG-6; SONY, DSC-RX100M4) を用いた. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った. 標準体長 (standard length) は体長と表記した. リスト中の各種の学名と掲載順は本村 (2024) にしたがった. 水中写真に関しては登録番号, 撮影地点, 撮影水深, 撮影日を記した. なお, 本研究で示した水中写真はすべて第 1 著者によって撮影された. 本研究に用いた魚類の標本と水中写真は, すべて鹿児島大学総合研究博物館に登録されている (標本: KAUM-I., 水中写真資料: KAUM-II.).

口永良部島初記録の魚類リスト

カラスザメ科 Etmopteridae

Etmopterus splendidus Yano, 1988

フトシミフジクジラ (Fig. 2A)

標本 2 個体 (全長 204.5–220.0 mm, 詳細な産地は不明): KAUM-I. 134488, 全長 220.0 mm, 水深 350 m, 釣

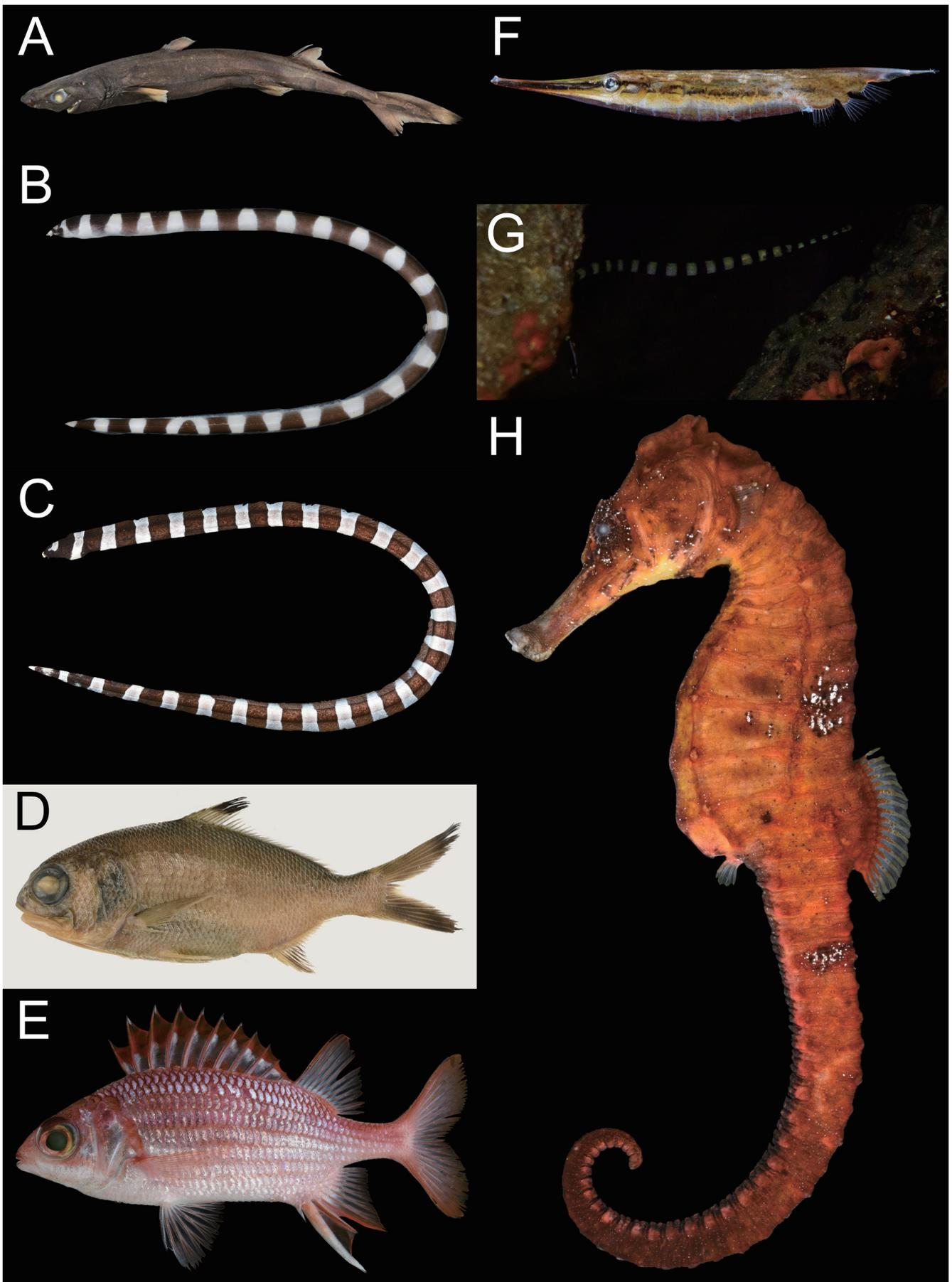


Fig. 2. Fishes recorded from Kuchinoerabu-jima island on the basis of specimens and an underwater photograph. A: *Etmopterus splendidus* (Etmopteridae), KAUM-I. 134488, 220.0 mm TL; B: *Leiuranus semicinctus* (Ophichthidae), KAUM-I. 190443, 364.8 mm TL; C: *Myrichthys colubrinus* (Ophichthidae), KAUM-I. 175194, 827.0 mm TL; D: *Polymixia japonica* (Polymixiidae), KAUM-I. 136928, 143.0 mm SL; E: *Sargocentron punctatissimum* (Holocentridae), KAUM-I. 175161, 94.9 mm SL; F: *Aeoliscus strigatus* (Centriscidae), KAUM-I. 175153, 49.0 mm SL; G: *Doryrhamphus dactyliophorus* (Syngnathidae), KAUM-II. 509; H: *Hippocampus kuda* (Syngnathidae), KAUM-I. 190439, 167.3 mm SL.

り, 2018年10月11日, 広島大学総合博物館; KAUM-I. 136960, 全長204.5 mm, 水深400 m, 釣り, 2016年2月1日, 広島大学総合博物館.

ウミヘビ科 Ophichthidae

Leiuranus semicinctus (Lay and Bennett, 1839)

ソラウミヘビ (Fig. 2B)

標本 KAUM-I. 190443, 全長364.8 mm, 西浦 (30°28'17"N, 130°11'28"E), 水深0 m (波打ち際), 手網, 2023年6月25日, 清和凌河.

Myrichthys colubrinus (Boddaert, 1781)

シマウミヘビ (Fig. 2C)

標本 KAUM-I. 175194, 全長827.0 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深8 m, 手網, 2022年9月23日, 清和凌河.

ギンメダイ科 Polymixiidae

Polymixia japonica Günther, 1877

ギンメダイ (Fig. 2D)

標本 KAUM-I. 136928, 体長143.0 mm, 長瀬 (30°25'47"N, 130°11'23"E), 水深400 m, 釣り, 2018年5月1日, 広島大学総合博物館.

イトウダイ科 Holocentridae

Sargocentron punctatissimum (Cuvier, 1829)

ホシエビス (Fig. 2E)

標本 2個体 (体長94.9–134.2 mm): KAUM-I. 175161, 体長94.9 mm, KAUM-I. 175176, 体長134.2 mm, 折崎 (30°28'53"N, 130°11'59"E), 水深0.1–0.5 m (タイドプール), 手網, 2022年8月28日, 阿部健志郎.

ヘコアユ科 Centriscidae

Aeoliscus strigatus (Günther, 1861)

ヘコアユ (Fig. 2F)

標本 KAUM-I. 175153, 体長49.0 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深0 m, 手網, 2022年9月15日, 阿部健志郎.

備考 本種は木村ほか (2017) の水中写真のみに基づき記録されていたため, 本標本は口永良部島における標本に基づく初めての記録となる.

ヨウジウオ科 Syngnathidae

Doryrhamphus dactyliophorus (Bleeker, 1853)

オイランヨウジ (Fig. 2G)

写真資料 KAUM-II. 509, 寝待 (30°28'09"N, 130°13'55"E), 水深20–25 m, 2023年9月19日.

Hippocampus kuda Bleeker, 1852

クロウミウマ (Fig. 2H)

標本 2個体 (体長113.4–167.3 mm): KAUM-I. 190439, 体長167.3 mm, 西浦 (31°28'24"N, 131°11'47"E), 水深1.5 m, 手網, 2022年6月6日, 清和凌河; KAUM-I. 190440, 体長113.4 mm, 西浦 (31°28'24"N, 131°11'47"E), 水深2 m, 手網, 2023年6月25日, 清和凌河.

フサカサゴ科 Scorpaenidae

Parascorpaena aurita (Rüppell, 1838)

チブルネットイフサカサゴ (Fig. 3A)

標本 2個体 (体長66.8–71.9 mm): KAUM-I. 175165, 体長71.9 mm, 西浦 (30°28'22"N, 130°11'45"E), 水深1 m, 手網, 2022年9月26日, 阿部健志郎; KAUM-I. 175191, 体長66.8 mm, 西浦 (30°28'22"N, 130°11'45"E), 水深3 m, 手網, 2022年9月16日, 松尾諒介.

Pteropterus radiata (Cuvier, 1829)

キミオコゼ (Fig. 3B)

標本 KAUM-I. 190441, 体長49.9 mm, 西浦 (30°28'N, 130°11'E), 水深1 m, 手網, 2023年9月3日, 中本拳士朗.

Scorpaenopsis possi Randall and Eschmeyer, 2002

ミミトゲオニカサゴ (Fig. 3C)

標本 2個体 (体長123.9–124.1 mm): KAUM-I. 91568, 体長124.1 mm, ダンバラ (30°26'34"N, 130°11'26"E), 水深50 m, 釣り, 2016年8月16日, 藤本将也; KAUM-I. 91569, 体長123.9 mm, コバエ (30°28'26"N, 130°09'24"E), 水深5 m, 手網, 2016年8月16日, 小枝圭太・木村祐貴.

ハタ科 Epinephelidae

Epinephelus tauvina (Fabricius, 1775)

ヒトミハタ (Fig. 3D)

標本 KAUM-I. 134499, 体長323.4 mm, 本村 (30°27'N, 130°11'E), 釣り, 2018年9月20日, 広島大学総合博物館.

Saloptia powelli Smith, 1964

ヤマブキハタ (Fig. 3E)

標本 KAUM-I. 136927, 体長475.0 mm, 口永良部島南西部 (30°26'24"N, 130°11'24"E), 釣り, 2018年5月1日, 広島大学総合博物館.

ハナダイ科 Serranidae

Pseudanthias cooperi (Regan, 1902)

カシワハナダイ (Fig. 3F)

写真資料 KAUM-II. 501, 折崎 (30°28'58"N, 130°12'04"E), 水深30–35 m, 2023年9月18日.

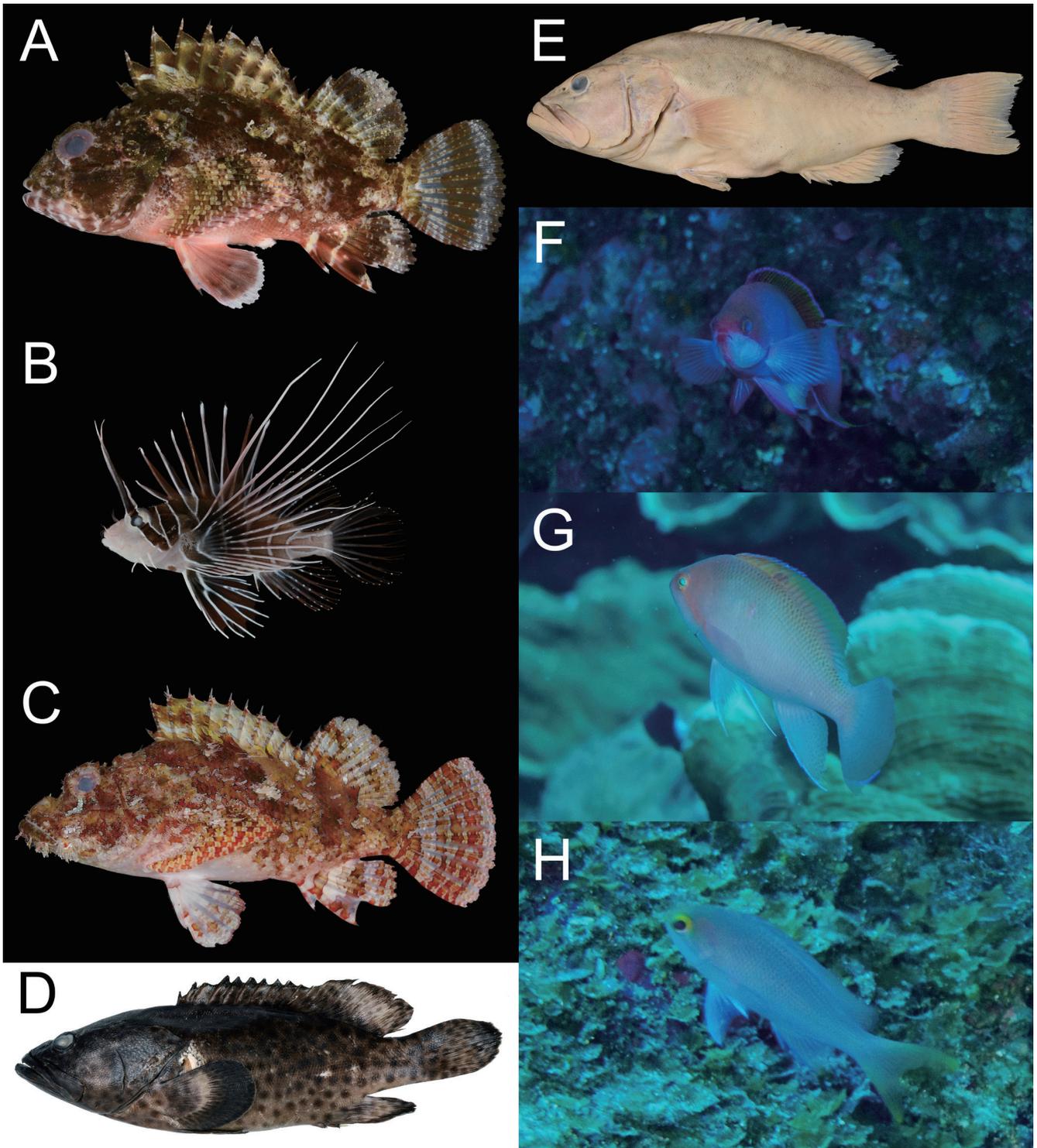


Fig. 3. Fishes recorded from Kuchinoerabu-jima island on the basis of specimens and underwater photographs. A: *Parascorpaena aurita* (Scorpaenidae), KAUM-I. 175165, 71.9 mm SL; B: *Pteropterus radiata* (Scorpaenidae), KAUM-I. 190441, 49.9 mm SL; C: *Scorpaenopsis possi* (Scorpaenidae), KAUM-I. 91568, 124.1 mm SL; D: *Epinephelus tauvina* (Epinephelidae), KAUM-I. 134499, 323.4 mm SL; E: *Saloptia powelli* (Epinephelidae), KAUM-I. 136927, 475.0 mm SL; F: *Pseudanthias cooperi* (Serranidae), KAUM-II. 501; G: *Pseudanthias hypselosoma* (Serranidae), KAUM-II. 520; H: *Pseudanthias* sp. (Serranidae), KAUM-II. 505.

Pseudanthias hypselosoma Bleeker, 1877

ケラマハナダイ (Fig. 3G)

写真資料 KAUM-II. 520, 西浦 (30°28'34"N, 130°11'38"E), 水深 15–20 m, 2022 年 9 月 29 日.

***Pseudanthias* sp.**

ベニハナダイ (Fig. 3H)

写真資料 KAUM-II. 505, 折崎 (30°28'58"N, 130°12'04"E), 水深 30–35 m, 2023 年 9 月 18 日.

Pyronanthias lori (Lubbock and Randall, 1976)

アカボシハナゴイ (Fig. 4A)

写真資料 KAUM-II. 507, 折崎 (30°28'58"N, 130°12'04"E), 水深 30–35 m, 2023 年 9 月 18 日.

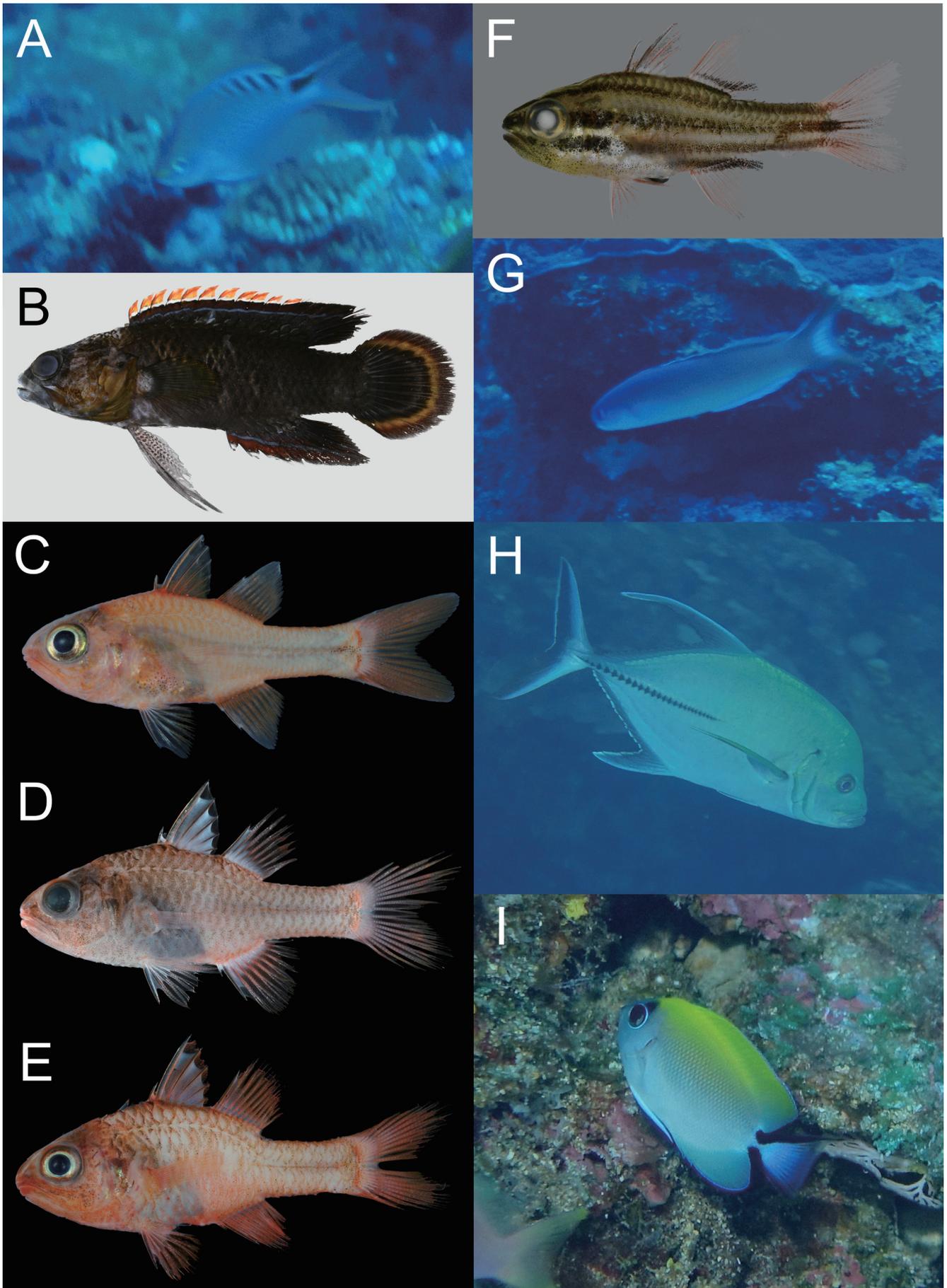


Fig. 4. Fishes recorded from Kuchinoerabu-jima island on the basis of specimens and underwater photographs. A: *Pyronotanthias lori* (Serranidae), KAUM-II. 507; B: *Plesiops coeruleolineatus* (Plesiopidae), KAUM-I. 175144, 46.0 mm SL; C: *Apogon crassiceps* (Apogonidae), KAUM-I. 90816, 22.0 mm SL; D: *Apogon kominatoensis* (Apogonidae), KAUM-I. 190446, 30.8 mm SL; E: *Apogon* sp. (Apogonidae), KAUM-I. 91007, 9.4 mm SL; F: *Ostorhinchus novemfasciatus* (Apogonidae), KAUM-I. 175185, 23.7 mm SL; G: *Hoplolatilus cuniculus* (Malacanthidae), KAUM-II. 506; H: *Caranx lugubris* (Carangidae), KAUM-II. 514; I: *Genicanthus semifasciatus* (Pomacanthidae), KAUM-II. 504.

タナバタウオ科 Plesiopidae

Plesiops coeruleolineatus Rüppell, 1835

タナバタウオ (Fig. 4B)

標本 2個体 (体長 46.0–57.9 mm) : KAUM-I. 175143, 体長 57.9 mm, KAUM-I. 175144, 体長 46.0 mm, 折崎 (30°28'53"N, 130°11'59"E), 水深 3 m, 手網, 2022 年 9 月 16 日, 松尾諒介.

テンジクダイ科 Apogonidae

Apogon crassiceps Garman, 1903

アカフジテンジクダイ (Fig. 4C)

標本 KAUM-I. 90816, 体長 22.0 mm, 北亀 (30°29'21"N, 130°11'10"E), 水深 23 m, 手網, 2016 年 8 月 18 日, 小枝圭太.

備考 本標本は木村ほか (2017) でコミナトテンジクダイ属の 1 種として報告されていたが, 本研究において再同定した結果, アカフジテンジクダイに同定された.

Apogon kominatoensis Ebina, 1935

コミナトテンジクダイ (Fig. 4D)

標本 2個体 (体長 25.7–30.8 mm) : KAUM-I. 190432, 体長 25.7 mm, 折崎 (31°28'54"N, 131°11'59"E), 水深 0.1–0.5 m (タイドプール), 手網, 2023 年 9 月 18 日, 阿部健志郎; KAUM-I. 190446, 体長 30.8 mm, 西浦 (30°28'23"N, 130°11'46"E), 水深 3 m, 手網, 2023 年 9 月 22 日, 清和凌河.

Apogon sp.

リュウキュウイシモチ (Fig. 4E)

標本 KAUM-I. 91007, 体長 9.4 mm, 西浦 (30°28'21"N, 130°11'45"E), 水深 11 m, 手網, 2016 年 8 月 23 日, 小枝圭太.

Ostorhinchus novemfasciatus (Cuvier, 1828)

タスジイシモチ (Fig. 4F)

標本 3個体 (体長 14.3–48.5 mm) : KAUM-I. 175185, 体長 23.7 mm, KAUM-I. 175193, 体長 14.3 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深 3 m, 手網, 2022 年 8 月 26 日, 阿部健志郎; KAUM-I. 175186, 体長 48.5 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深 3 m, 手網, 2022 年 9 月 24 日, 阿部健志郎.

キツネアマダイ科 Malacanthidae

Hoplolatilus cuniculus Randall and Dooley, 1974

オキナワサンゴアマダイ (Fig. 4G)

写真資料 KAUM-II. 506, 折崎 (30°28'58"N, 130°12'04"E), 水深 35–40 m, 2023 年 9 月 18 日.

アジ科 Carangidae

Caranx lugubris Poey, 1860

カッポレ (Fig. 4H)

写真資料 KAUM-II. 514, 岩屋泊 (30°29'14"N, 130°10'09"E), 水深 15–20 m, 2022 年 8 月 21 日.

キンチャクダイ科 Pomacanthidae

Genicanthus semifasciatus (Kamohara, 1934)

トサヤッコ (Fig. 4I)

写真資料 KAUM-II. 504, 折崎 (30°28'58"N, 130°12'04"E), 水深 35–40 m, 2023 年 9 月 18 日.

スズメダイ科 Pomacentridae

Plectroglyphidodon insularis (Allen and Emery, 1985)

ヨロンスズメダイ (Fig. 5A)

標本 KAUM-I. 175199, 体長 50.8 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深 3 m, 手網, 2022 年 9 月 22 日, 阿部健志郎.

Pycnocrhmis leucurus (Gilbert, 1905)

フカミスズメダイ (Fig. 5B)

写真資料 KAUM-II. 500, 折崎 (30°28'58"N, 130°12'04"E), 水深 35–40 m, 2023 年 9 月 18 日.

シマイサキ科 Terapontidae

Terapon theraps Cuvier, 1829

ヒメコトヒキ (Fig. 5C)

標本 2個体 (体長 48.7–58.4 mm) : KAUM-I. 175127, 体長 58.4 mm, KAUM-I. 157129, 体長 48.7 mm, 西浦 (30°28'22"N, 130°11'44"E), 水深 0 m (水面), 手網, 2022 年 8 月 12 日, 阿部健志郎.

メジナ科 Girellidae

Girella mezinga Jordan and Starks, 1907

オキナメジナ (Fig. 5D)

標本 KAUM-I. 190431, 体長 65.1 mm, 折崎 (30°28'54"N, 130°11'59"E), 水深 0.1–0.5 m (タイドプール), 手網, 2023 年 9 月 18 日, 阿部健志郎.

備考 本種は木村ほか (2017) の水中写真のみに基づき記録されていたため, 本標本は口永良部島における標本に基づく初めての記録となる.

ベラ科 Labridae

Anampses neoguinaicus Bleeker, 1877

ニューギニアベラ (Fig. 5E)

写真資料 KAUM-II. 510, 西浦 (30°28'29"N, 130°11'24"E), 水深 10–15 m, 2022 年 8 月 5 日.

Bodianus dictynna Gomon, 2006

モンツキベラ (Fig. 5F)

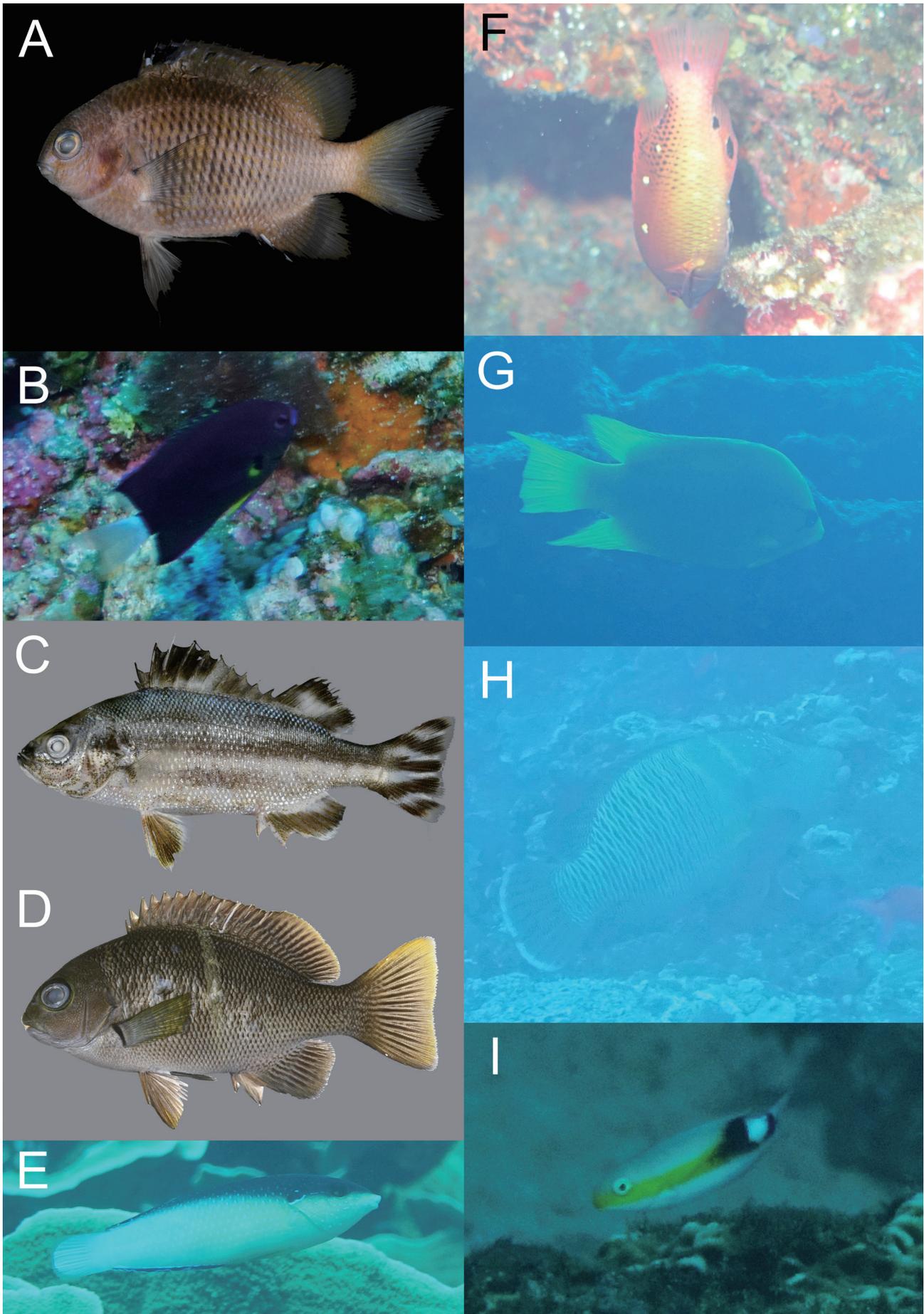


Fig. 5. Fishes recorded from Kuchinoerabu-jima island on the basis of specimens and underwater photographs. A: *Pycnochromis leucurus* (Pomacentridae), KAUM-II. 500; B: *Plectroglyphidodon insularis* (Pomacentridae), KAUM-I. 175199, 58.8 mm SL; C: *Terapon theraps* (Terapontidae), KAUM-I. 175127, 58.4 mm SL; D: *Girella mezina* (Girellidae), KAUM-I. 190431, 65.1 mm SL; E: *Anampses neoguinaicus* (Labridae), KAUM-II. 510; F: *Bodianus dictynna* (Labridae), KAUM-II. 513; G: *Epibulus insidiator* (Labridae), KAUM-II. 512; H: *Cheilinus undulatus* (Labridae), KAUM-II. 515; I: *Choerodon jordani* (Labridae), KAUM-II. 517.

写真資料 KAUM-II. 513, 寝待 (30°28'09"N, 130°13'55"E), 水深 20–25 m, 2022 年 8 月 22 日.

Epibulus insidiator (Pallas, 1770)

ギチベラ (Fig. 5G)

写真資料 KAUM-II. 512, 寝待 (30°28'09"N, 130°13'55"E), 水深 15–20 m, 2022 年 8 月 9 日.

備考 本種は Kadota et al. (2024) により目視にのみ基づき記録されていたため, 本研究は水中写真に基づく記録となる.

Cheilinus undulatus Rüppell, 1835

メガネモチノウオ (Fig. 5H)

写真資料 KAUM-II. 515, 岩屋泊 (30°29'14"N, 130°10'09"E), 水深 15–20 m, 2022 年 8 月 21 日.

Choerodon jordani (Snyder, 1908)

クラカケベラ (Fig. 5I)

写真資料 KAUM-II. 517, 西浦 (30°28'34"N, 130°11'38"E), 水深 15–20 m, 2022 年 9 月 15 日.

Cirrhilabrus melanomarginatus Randall and Shen, 1978

トモンビイトヒキベラ (Fig. 6A)

写真資料 KAUM-II. 516, 西浦 (30°28'34"N, 130°11'38"E), 水深 15–20 m, 2022 年 9 月 1 日.

Hologymnosus annulatus (Lacepède, 1801)

ナメラベラ (Fig. 6B)

標本 KAUM-I. 190434, 体長 48.5 mm, 西浦 (30°28'23"N, 130°11'46"E), 水深 3 m, 2023 年 8 月 11 日, 清和凌河.

備考 本種は Kadota et al. (2024) の目視のみに基づき記録されていたため, 本標本は口永良部島における標本に基づく初めての記録となる.

Pseudocoris yamashiroi (Schmidt, 1931)

ヤマシロベラ (Fig. 6C)

写真資料 KAUM-II. 521, 岩屋泊 (30°29'01"N, 130°10'08"E), 水深 15–20 m, 2021 年 8 月 17 日.

イソギンポ科 Blenniidae

Meiacanthus grammistes (Valenciennes, 1836)

ヒゲニジギンポ (Fig. 6D)

写真資料 KAUM-II. 523, 西浦 (30°28'23"N, 130°11'39"E), 水深 0–5 m, 2022 年 8 月 26 日.

ネズツボ科 Callionymidae

Neosynchiropus ocellatus (Pallas, 1770)

コウワンテグリ (Fig. 6E)

標本 KAUM-I. 175123, 体長 61.6 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深 2 m, 手網, 2022 年 9 月 15 日, 阿部健志郎.

ハゼ科 Gobiidae

Amblyeleotris periophthalma (Bleeker, 1853)

ダンダラダテハゼ (Fig. 6F)

写真資料 KAUM-II. 522, 湯向 (30°27'19"N, 130°15'08"E), 水深 20–25 m, 2021 年 8 月 23 日.

Bathygobius cotticeps (Steindachner, 1879)

クサビハゼ (Fig. 6G)

標本 KAUM-I. 175156, 体長 36.6 mm, 口永良部港 (30°27'41"N, 130°11'45"E), 水深 0.1–0.5 m, 手網, 2022 年 8 月 26 日, 阿部健志郎.

Fusigobius melacron (Randall, 2001)

ツマグロサンカクハゼ (Fig. 6H)

標本 KAUM-I. 190433, 体長 42.1 mm, 西浦 (30°28'26"N, 130°11'40"E), 水深 20 m, 手網, 2023 年 8 月 11 日, 清和凌河.

Luciogobius elongatus Regan, 1905

ナガミミズハゼ (Fig. 6I)

標本 16 個体 (体長 12.1–26.3 mm) : KAUM-I. 180955, 体長 26.3 mm, KAUM-I. 180956, 体長 25.8 mm, KAUM-I. 180957, 体長 24.6 mm, KAUM-I. 180958, 体長 21.5 mm, KAUM-I. 180959, 体長 23.3 mm, KAUM-I. 180960, 体長 23.8 mm, KAUM-I. 180961, 体長 22.1 mm, KAUM-I. 180962, 体長 21.7 mm, KAUM-I. 180963, 体長 18.8 mm, KAUM-I. 180964, 体長 18.6 mm, KAUM-I. 180965, 体長 18.6 mm, KAUM-I. 180966, 体長 17.5 mm, KAUM-I. 180967, 体長 14.5 mm, KAUM-I. 180968, 体長 14.5 mm, KAUM-I. 180969, 体長 13.7 mm, KAUM-I. 180970, 体長 12.1 mm, 寝待 (30°28'05"N, 130°13'50"E), 水深 0 m, 徒手, 2022 年 8 月 24 日, 阿部健志郎.

備考 本種は国内では青森県から宮崎県の太平洋沿岸や福井県から鹿児島県薩摩半島の日本海・東シナ海沿岸, 甌島列島 (下甌島), および大隅諸島 (屋久島・種子島) から記録されていた (渋川ほか, 2019; 是枝・本村, 2021; 田代ほか, 2022; 是枝ほか, 2023; Motomura, 2023). 本研究により口永良部島から本種が初めて記録された.

明仁ほか (2013) は沖縄県瀬底島を本種の分布記録に含めたが, 是枝ほか (2023) はこの記録が他種との誤同定の可能性があるとして, 本種の分布記録から除外した. し

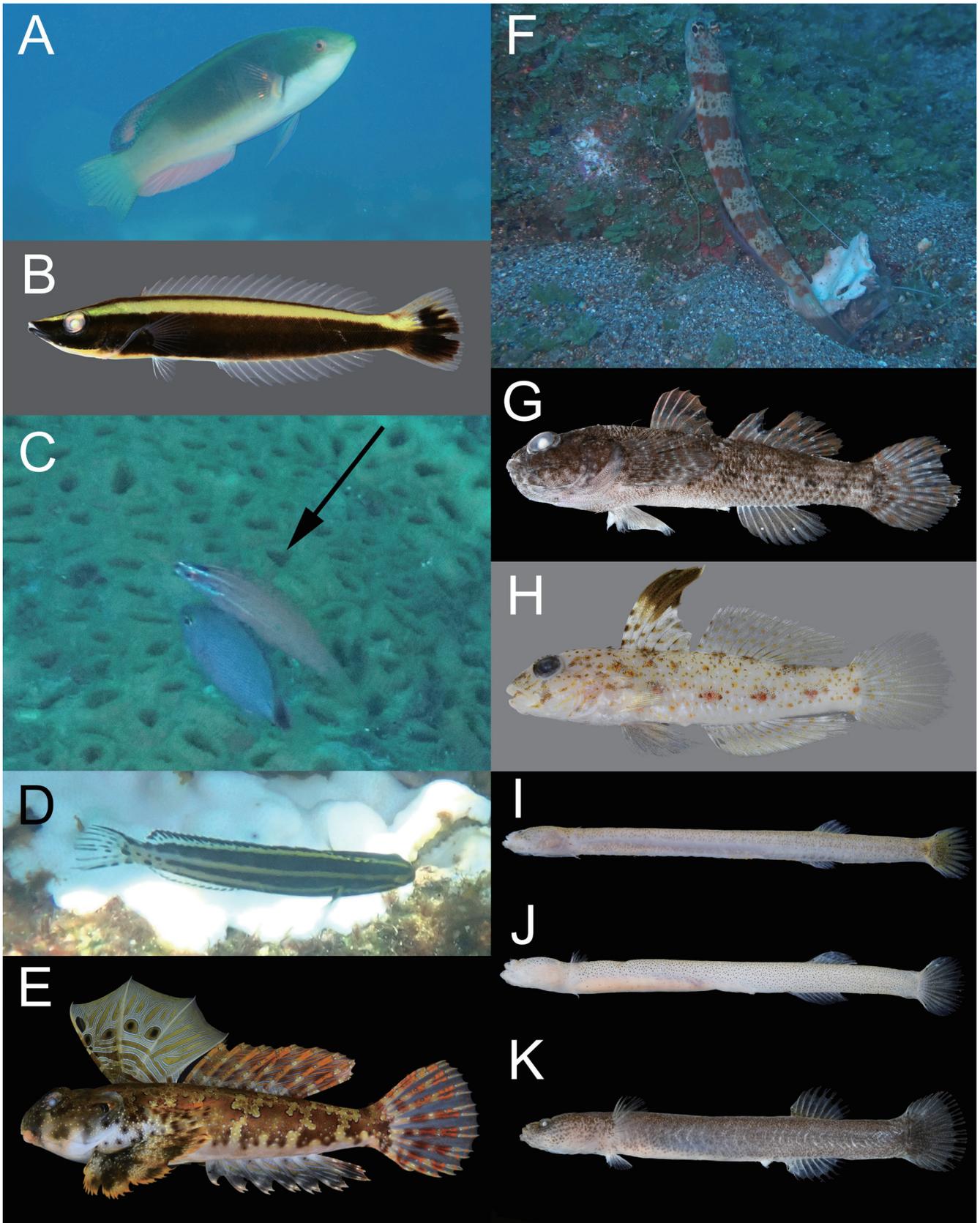


Fig. 6. Fishes recorded from Kuchinoerabu-jima island on the basis of specimens and underwater photographs. A: *Cirrhilabrus melanomarginatus* (Labridae), KAUM-II. 516; B: *Hologymnosus annulatus* (Labridae), KAUM-I. 190434, 48.5 mm SL; C: *Pseudocoris yamashiroi* (Labridae), KAUM-II. 521; D: *Meiacanthus grammistes* (Blenniidae), KAUM-II. 523; E: *Neosynchiropus ocellatus* (Callionymidae), KAUM-I. 175123, 61.6 mm SL; F: *Amblyeleotris periophthalma* (Gobiidae), KAUM-II. 522; G: *Bathygobius cotticeps* (Gobiidae), KAUM-I. 175156, 36.6 mm SL; H: *Fusigobius melacron* (Gobiidae), KAUM-I. 190433, 42.1mm SL; I: *Luciogobius elongatus* (Gobiidae), KAUM-I. 180957, 24.6 mm SL; J: *Luciogobius* sp. sensu Shibukawa (2014) (Gobiidae), KAUM-I. 180971, 23.8 mm SL; K: *Luciogobius* sp. 3 sensu Shibukawa et al. (2019) (Gobiidae), KAUM-I. 190430, 18.9 mm SL.

たがって、口永良部島産の標本は屋久島・種子島とならび本種の分布の南限記録となる。

***Luciogobius* sp. sensu Shibukawa (2014)**
ミミズハゼ属の一種 (Fig. 6J)

標本 5 個体 (体長 20.6–32.8 mm), KAUM-I. 180971, 体長 23.8 mm, KAUM-I. 180972, 体長 25.3 mm, KAUM-I. 180973, 体長 24.1 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 徒手, 2022 年 9 月 12 日, 阿部健志郎; KAUM-I. 180974, 体長 32.8 mm, KAUM-I. 180975, 体長 20.6 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深 0 m, 徒手, 2022 年 9 月 24 日, 阿部健志郎.

備考 本種は大隅諸島 (竹島) と奄美群島 (沖永良部島・与論島) から記録されていた (渋谷, 2014; 赤池ほか, 2021; 望月ほか, 2022). したがって, 口永良部島産の標本は国内 4 例目の記録となる.

Luciogobius sp. 3 sensu Shibukawa et al. (2019)

ゴマミズハゼ (Fig. 6K)

標本 3 個体 (体長 18.8–20.2 mm), KAUM-I. 190428, 体長 20.2 mm, KAUM-I. 190429, 体長 18.9 mm, KAUM-I. 190430, 体長 18.9 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深 0 m, 徒手, 2023 年 8 月 4 日, 清和凌河.

備考 本種は八丈島, 静岡県, 和歌山県, 男女群島, および甌島列島 (下甌島) から記録されていた (渋谷ほか, 2019; 是枝・本村, 2021; 齊藤, 2023). したがって, 口永良部島産の標本は本種の分布の南限記録となる.

Priolepis inhaca (Smith, 1949)

アミメベンケイハゼ (Fig. 7A)

写真資料 KAUM-II. 524, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'47"E), 水深 0–5 m, 2021 年 9 月 22 日.

Trimma caudomaculatum Yoshino and Araga, 1975

アオギハゼ (Fig. 7B)

写真資料 KAUM-II. 511, 寝待 (30°28'09"N, 130°13'55"E), 水深 15–20 m, 2022 年 8 月 9 日.

Trimma taylori Lobel, 1979

オヨギベニハゼ (Fig. 7C)

写真資料 KAUM-II. 508, 寝待 (30°28'09"N, 130°13'55"E), 水深 20–25 m, 2023 年 9 月 19 日.

Valenciennesa helsdingenii (Bleeker, 1858)

クロイトハゼ (Fig. 7D)

写真資料 KAUM-II. 518, 西浦 (30°28'34"N, 130°11'38"E), 水深 20–25 m, 2022 年 9 月 15 日.

Vanderhorstia sp. 2

コモンヤツシハゼ (Fig. 7E)

標本 KAUM-I. 175175, 体長 31.9 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深 2 m, 手網, 2022 年 8 月 29 日,

阿部健志郎.

クロユリハゼ科 Ptereleotridae

Nemateleotris decora Randall and Allen, 1973

アケボノハゼ (Fig. 7F)

写真資料 KAUM-II. 502, 折崎 (30°28'58"N, 130°12'04"E), 水深 30–35 m, 2023 年 9 月 18 日.

Ptereleotris grammica Randall and Lubbock, 1982

スジクロユリハゼ (Fig. 7G)

写真資料 KAUM-II. 503, 折崎 (30°28'58"N, 130°12'04"E), 水深 35–40 m, 2023 年 9 月 18 日.

Ptereleotris heteroptera (Bleeker, 1855)

オグロクロユリハゼ (Fig. 7H)

写真資料 KAUM-II. 519, 寝待 (30°28'09"N, 130°13'55"E), 水深 20–25 m, 2022 年 9 月 24 日.

ニザダイ科 Acanthuridae

Acanthurus blochii Valenciennes, 1835

オスジクロハギ (Fig. 7I)

標本 KAUM-I. 134485, 体長 237.7 mm, ニゴリ (30°26'27"N, 130°11'30"E), 釣り, 2018 年 10 月 7 日, 広島大学総合博物館.

Naso lituratus (Forster, 1801)

ミヤコテングハギ (Fig. 7J)

標本 KAUM-I. 134490, 体長 184.0 mm, 西浦 (30°28'21"N, 130°11'35"E), 釣り, 2018 年 5 月 14 日, 広島大学総合博物館.

備考 本種は木村ほか (2017) の水中写真と Kadato et al. (2024) の目視にのみに基づき記録されていたため, 本標本は口永良部島における標本に基づく初めての記録となる.

モンガラカワハギ科 Balistidae

Canthidermis maculata (Bloch, 1786)

アミモンガラ (Fig. 8A)

標本 KAUM-I. 175133, 体長 59.5 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'48"E), 水深 0 m (水面), 手網, 2022 年 8 月 21 日, 阿部健志郎.

ハリセンボン科 Diodontidae

Diodon liturosus Shaw, 1804

ヒトヅラハリセンボン (Fig. 8B)

標本 KAUM-I. 190486, 体長 358.9 mm, 西浦 (30°28'24"N, 130°11'47"E), 水深 1 m, 手網, 2023 年 9 月 30 日, 清和凌河.

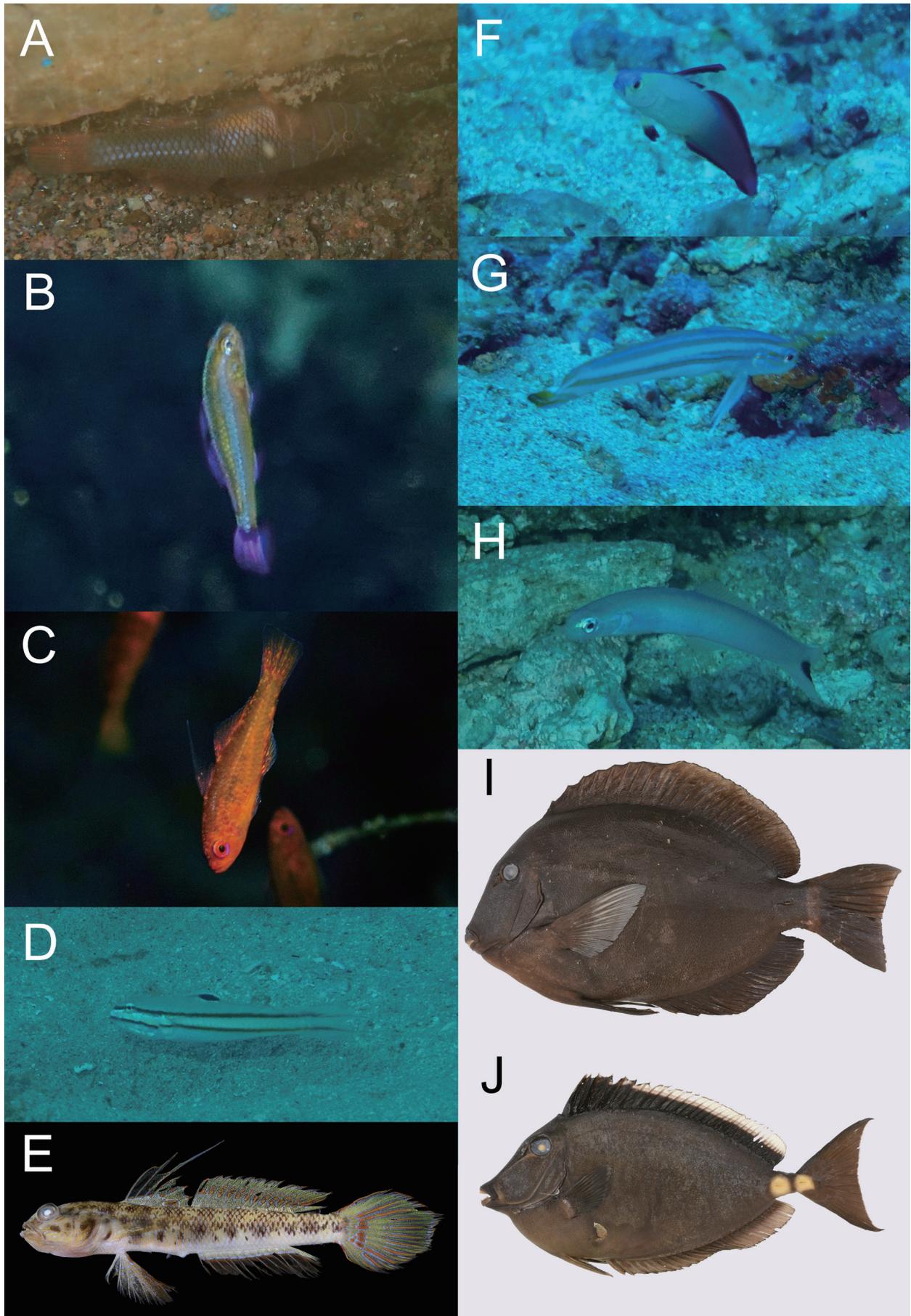


Fig. 7. Fishes recorded from Kuchinoerabu-jima island on the basis of specimens and underwater photographs. A: *Priolepis inhaca* (Gobiidae), KAUM-II. 524; B: *Trimma caudomaculatum* (Gobiidae), KAUM-II. 511; C: *Trimma taylori* (Gobiidae), KAUM-II. 508; D: *Valenciennesa helsdingenii* (Gobiidae), KAUM-II. 518; E: *Vanderhorstia* sp. 2 (Gobiidae), KAUM-I. 175175, 31.9 mm SL; F: *Nemateleotris decora* (Ptereleotridae), KAUM-II. 502; G: *Ptereleotris grammica* (Ptereleotridae), KAUM-II. 503; H: *Ptereleotris heteroptera* (Ptereleotridae), KAUM-II. 519; I: *Acanthurus blochii* (Acanthuridae), KAUM-I. 134485, 237.7 mm SL; J: *Naso lituratus* (Acanthuridae), KAUM-I. 134490, 184.0 mm SL.

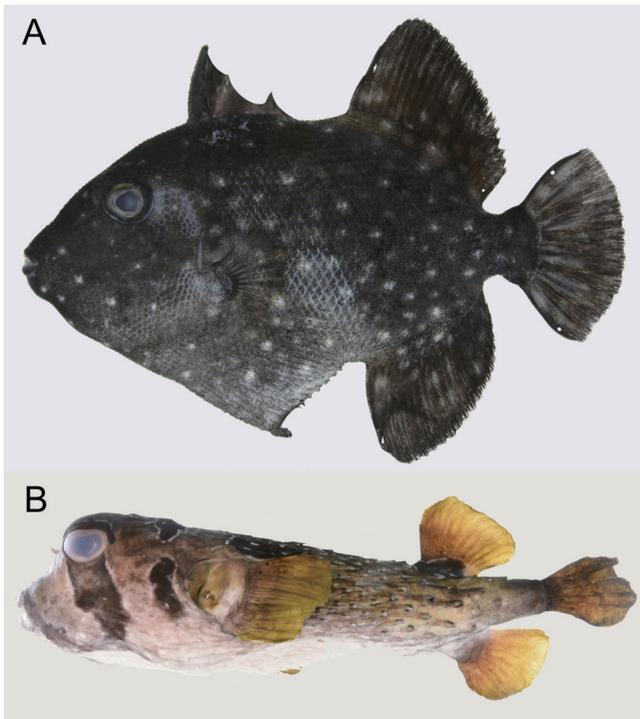


Fig. 8. Fishes recorded from Kuchinoerabu-jima island on the basis of specimens. A: *Canthidermis maculate* (Balistidae), KAUM-I. 175133, 59.5 mm SL; B: *Diodon litorosus* (Diodontidae), KAUM-I. 190486, 358.9 mm SL.

以上のように、52種が口永良部島初記録となり、4種が標本に基づく初記録、1種が水中写真に基づく初記録となった。また、ナガミミズハゼとゴマミミズハゼの2種は本研究によって口永良部島から記録され、両種の南限記録となった。これまでの調査で記録されていた魚類は712種（木村ほか、2014, 2017；池、2017；渋谷ほか、2022；ジョンほか、2023；Oyama et al., 2023；Kadota et al., 2024）であったが、本研究により口永良部島から記録された魚類の総種数は763種となった〔アカフジテンジクダイは木村ほか（2017）でコミナトテンジクダイ属の一種として種数に計上されているため除外され、本研究における追加種数は51種となる〕。本研究で新たに記録された魚類について琉球列島以南を主な分布域とする種を熱帯種、冷温帯から暖温帯を主な分布域とする種を温帯種、および冷温帯から琉球列島に広く分布する種を広範囲種と分類したところ、それぞれ37種、2種、および13種であった。この結果は熱帯種が多くを占めるものの、温帯種が少ないながらも確認された木村ほか（2017）と類似した。木村ほか（2014）とKadota et al.（2024）では、過去の調査で確認された温帯種が減少したのは、近年の海水温上昇が原因だという考察がなされている。本研究で記録された魚類においても、多くが熱帯種もしくは広範囲種であり、木村ほか（2014）とKadota et al.（2024）の見解を支持するものだと考えられる。人為的な環境変化の程度が比較的少ない口永良部島において、今後も継続的な魚類調査を行い、大隅諸島の魚類多様性の理解を進めるとともに、海洋環境の変化を捉えるた

めの基盤データとして出現魚種の変化を記録する必要がある。

謝 辞

広島大学水圏資源生物学研究室の尾山 匠氏、中本樹氏、中本拳士朗氏、松尾諒介氏、湊駿太郎氏、および宮崎県東臼杵農林振興局の池原悠太氏には採集調査ならびにダイビング調査にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさまには標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。鹿児島大学大学院連合農学研究科の是枝伶旺氏にはミミズハゼ属の、鹿児島大学水産学部の前田知範氏にはコミナトテンジクダイ属の同定に際して有益なご助言をいただいた。峯 健氏や山口正行氏をはじめとする口永良部島の島民のみなさまには本調査へのお力添えをいただいた。Ichthy 編集委員の中村潤平氏と匿名の査読者には本稿の改訂に際し有益な助言をいただいた。この場を借りて深く感謝申し上げる。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 研究奨励費 (DC1: 23KJ1779)、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業（奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル）の援助を受けた。

引用文献

- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビョル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健太郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021. 標本に基づく琉球列島初記録を含む沖永良部島初記録の魚類66種、およびサザンプラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 18–35. [URL](#)
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ垂目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 東京.
- Dewa, Y. and H. Motomura. 2022. Redescription of *Enneapterygius erythrosoma* Shen 1994 and a synopsis of *Enneapterygius similis* Fricke 1997, with comments on the taxonomic status of *Enneapterygius rubicauda* Shen 1994 (Perciformes: Tripterygiidae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-022-00871-4 (June 2022), 71: 174–179 (Jan. 2023).
- 具島健二・村上 豊. 1977. 口永良部島の本村湾における磯魚の種類組成. *広島大学水畜産学部紀要*, 16: 107–114. [URL](#)
- 具島健二・村上 豊. 1978. 口永良部島の本村湾における磯魚の垂直分布. *広島大学水畜産学部紀要*, 17: 175–189. [URL](#)
- 畑 晴陵・中村潤平・本村浩之. 2021. 薩南諸島から得られたリュウキュウキビナゴ *Spratelloides atrofasciatus*. *Fauna Ryukyuan*, 59: 41–49. [URL](#)
- 飯野友香・本村浩之. 2021. ベラ科魚類 *Pteragogus enneacanthus* キツネオハグロベラ（新称）の標本に基づく日本からの初記録、および国内における分布状況. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 9: 21–26. [URL](#)

- 池 俊人. 2017. 口永良部島で観察した淡水魚類. 鹿児島県立博物館報告, 36: 25–27. [URL](#)
- ジョン ビョル・大富 潤・本村浩之. 2023. 鹿児島県大隅諸島から得られた北西太平洋初記録のフエダイ科魚類 *Etelis boweni* オオアカムツ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.22–018 (Mar. 2023), 70: 95–102 (Apr. 2023).
- Kadota, T., N. Shimizu, M. Tsuboi, B. Barros, Y. Sakai, H. Hashimoto and K. Gushima. 2024. Change in the subtidal reef fish assemblage at Kuchierabu-jima Island, southern Japan, between 1972 and 2005. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-00963-3 (Mar. 2024).
- 川路由人・瀬能 宏・武藤望生・本村浩之. 2019. ハタ科イヅハナダイ属魚類 *Plectranthias longimanus* ムラモミジハナダイ (新称), *P. nanus* チビハナダイ, および *P. winniensis* デイゴハナダイ (新称) の日本における記録と分類学的再検討. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-004 (May 2019), 66: 137–154 (Nov. 2019). [URL](#)
- 木村祐貴. 2022. 「緑の火山島 口永良部島の魚類」のお詫びと訂正. オンライン版. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. [URL](#)
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp. [URL](#)
- 木村祐貴・和西昭仁・坂井陽一・橋本博明・具島健二. 2014. 鹿児島県口永良部島の岩礁性タイドプールの魚類相. Fauna Ryukyuan, 11: 1–7. [URL](#)
- 是枝伶旺・本村浩之. 2021. 下甌島から得られた温帯・亜熱帯性ミミズハゼ属魚類 7 種の記録, およびミミズハゼ属において初めて確認された交雑の可能性. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 11: 27–52. [URL](#)
- 是枝伶旺・緒方悠輝也・本村浩之. 2023. 宮崎県初記録のミミズハゼ属 6 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 31: 6–13. [URL](#)
- 望月健太郎・是枝伶旺・佐藤智水・本村浩之. 2022. 大隅諸島竹島から得られた北限更新記録を含む同島初記録の魚類 43 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 23: 19–31. [URL](#)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20: 1–250. [URL](#)
- 本村浩之. 2024. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 25. [URL](#)
- Oyama, T., K. Abe, T. Sunobe and Y. Sakai. 2023. Protogynous sexuality and gonad structures in the coral-dwelling goby *Pleurosicya mossambica*. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-023-00910-8 (Apr. 2023), 71: 174–179 (Jan. 2024).
- 斉藤洪成. 2023. 静岡県初島から得られたコマハゼ属およびミミズハゼ属魚類 4 種 (コマハゼ, ゴマミミズハゼ, ナンセンハゼ, ミズヒキナガミミズハゼ) の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 32: 13–20. [URL](#)
- 渋川浩一. 2014. ミミズハゼ属の一種, p. 530. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12: 29–96. [URL](#)
- 渋谷駿太・前川隆則・桜井 雄・本村浩之. 2022. フエフキダイ科 *Lethrinus olivaceus* Valenciennes, 1830 キツネフエフキの新参異名とされていた *Lethrinus longirostris* Playfair, 1867 タチガミフエフキ (新称) の有効性と再記載. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 50–66. [URL](#)
- 田代郷国・是枝伶旺・藤原恭司. 2022. ハゼ科, pp. 237–264. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2018. Redescriptions of two western Pacific triplefins (Perciformes: Tripterygiidae), *Enneapterygius fuscoventer* and *E. howensis*. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-017-0612-5 (Feb. 2018), 65:252–264 (Apr. 2018).